

デンソー山岳部 08年 春山合宿報告書

山城 北アルプス 蝶ヶ岳～常念岳～燕岳

日程 平成20年4月26日～30日(予備日1日)

メンバー

A隊 山田 明(C L) 町田 修(S L) 江頭 孝治 竹内 幹雄 亀山 誠
B隊 渡辺 勝利 金子 清 津田 廣一



4月26日(土)雨 14:00 上高地 16:00 徳沢ロッジ

交通機関にて上高地に入山、ここから小雨の降る中を徳沢ロッジまで歩く。風呂に入り、夕食を済ませゆっくりと休む。

4月27日(日)曇のち晴 徳沢 蝶ヶ岳

7:15 徳沢ロッジ発(1560m) 8:20 (10分) (1850m) 9:25 (10分) (2160m) 10:25 1本(15分) (2400m)
11:30 1本(10分) (2530m) 12:30 テント場着(蝶ヶ岳ヒュッテ手前)(2600m)

昨日からの雨もやみ、天候は回復基調である。徳沢ロッジで朝食をしっかりと頂き、気合も十分に、全員元気に7時15分に出発。雪の中を少し歩き、登山道に入ると、いきなりの急登である。雪のある所、ない所と交叉する。まだ気温が低いせいか？雪もしまっており、急登以外は歩き易い。トップ町田さんが、がんがん飛ばす。“ペース早いな～”と、思いつつ必死についていくが、トップ集団とは距離が開いてしまった。マイペースで登る方向へチェンジし、一步、一步、確実に高度を稼ぐ。登山道も、いつの間にか？全面、雪に覆われている。急登の割には、汗もかかず、快適である。雪道を踏み抜かない様に、前に行く竹内さんの足跡を忠実にたどる。やや広い所で、1時間一寸歩いたところで、一本。水を飲み、思い思いに行動食を口にすが、まだまだ、元気。10分程、小休止して出発。少しずつ薄日も射すようになってきた。天候回復の兆しが見えてくるに伴い、気分もハイになってくる。久し振りというより、何十年ぶりの本格的な雪道に気分が浮かれている。気温上昇に伴い締まっていた雪が緩み、ズブッ、ズブッと踏み抜くようになってきた。私の前の竹内さんは、ザックにつけたピッケルの先が樹木の枝に引っ掛かり、二重に悪戦苦闘している。“今日までは晴天は駄目かな？降りさえしなければいいや”と、思っていたが、そうこうする内に空が青くなってきた。天候の回復が予想以上に早い。これは調子がいい。晴れてくると気温がどんどん上がる。標高は高くなっているが、汗ばむ様になり多少疲れを感じだした頃、標高2400mぐらいの所で視界が開け、バーンと迫力のある穂高の雄姿が眼前に迫っている。絶好のビューポイントで少し長目の15分休憩。最高の景色が疲れも吹っ飛ばしてくれた。しばらくして、傾斜も緩くなり、今度は平坦な尾根筋を淡々と進む。結構、長い。広い所で一本



を取って、1時間弱歩いた所で比較的、風の弱い平坦地(テン場)に到着し、今日の行動を終了した(12:30)。早速、テントを張り、小屋までビールを買いに行き、恒例の宴会で1日は終了した。(記:津田)

4/28(月)快晴

A隊 3:00起床 5:12蝶ヶ岳テン場出発 6:04蝶ガ岳頂上 10:10常念岳 11:00常念小屋

朝食を済ませ明るくなり始めた頃に蝶ガ岳に向かって出発をする。小屋を過ぎて横尾への分岐を過ぎた辺りから横風が強くなって来る。頂上手前では時折耐風姿勢を取りながら慎重に登って行く。出発から1ピッチ程で蝶ガ岳頂上に到着した。全員で集合写真を撮り、ここで縦走隊5名は常念岳から燕岳に向かい下山隊3名は上高地へ下山と、分かれ行動を進めた。縦走隊は常念岳に向かって急な下りを進んでいく。やがてコルまで下りてここからの登りが結構キツイ。アップダウンを繰り返しながら頂上直下までたどりつく。ここからが踏ん張りどころだと心に言い聞かせながら、横風に吹かれながら急登を慎重に登っていく。出発から5時間ほどでようやく常念岳頂上に到着した。ここから常念小屋は急な下りを下りていくのだが、急な傾斜に恐れを抱いた私は町田さんと亀山さんにザイルを出してもらい、それにシュリング、カラビナをつないで下ることにした。アイゼンも良く利いて安心して下ることができ、途中からはザイルも外して下りていく。そして、無事常念小屋にたどり着くことができた。小屋には午前中に着くことができたが予定通り、本日の行動はここまでとしてテントを張り、ここでゆっくり休むことになった。



記 竹内

B隊 起床~頂上まではA隊と同じ 7:10テント場着 7:45テント場発 10:30徳沢園着
10:50徳沢園発 12:30上高地着 14:30さわんど温泉 20:00刈谷着

A隊と別れテント場まで戻る。早々にテント撤収し3名で下山する。トレースもしっかり付いて迷うことはない。途中、頂上へ向う登山者数名とすれ違う。徳沢園から明神岳が綺麗に見える。天気も良い。記念写真を撮り、一路上高地へ向う。上高地から沢渡までタクシーで行き、さわんど温泉で汗を流し刈谷へ帰る。

(金子)

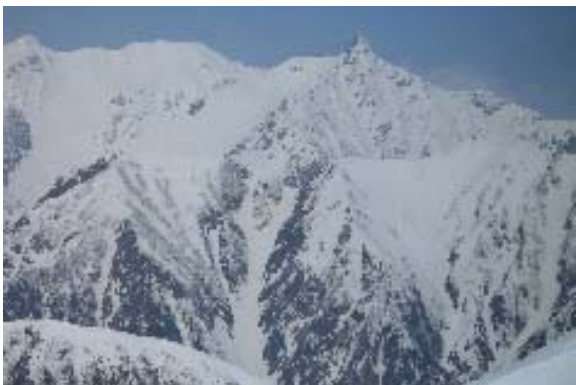
4月29日(火)快晴

3:00起床 4:00朝食 5:00常念小屋発 5:50横通岳 8:30大天井岳 10:00クサリ場 13:50燕山荘着

1/f 風が渡る常念乗越の黎明。見上げればハーフムーンと明けの明星、あとはまっさら群青のキャンバスを北アルプスの連山が縁取る。静かに山の一日が始まる。

棒ラーメンを腹八分、手際よく天幕を撤収し各自パッキングを済ませ出発。もはやLEDは不要の横通岳の南斜面から旅を再開。15分ほど登ったろうか、赤玉のような太陽が東の空に上がった刹那、北アルプス前穂から槍まで桜に染まる...岳人なら足を止め、カメラ、携帯、あるいはその心にと何でも使ってこの贈り物を焼き付ける。

横通であらためて遠く南方に視線をやれば、僅かに霞んで甲斐駒、仙丈まで見通せる。この恵まれた天気心躍る。一の俣谷の大カールを左に抱えて進むころ、一旦無風となり、ヤッケが暑いくらい。着衣を各人調整する。いつの間にか東天井を通過、緩やかに登降しながら稜線漫歩を楽しむ。信州側に時より見せる雪庇がデカイ。日差しはきつい



が、クラストした雪面に気持ちよくクランポンが効く。ちょっと単調な登りに飽きた頃、まだ硬く扉を開ざしたままの大天荘に着く。

大休止。北東方面の遙か先、目的地の小屋が芥子粒のように見える。大天井岳（2929m）を踏み、さて足元には高度差200mはあろう一枚バーンが展開する。急斜面へ飛び出して、さらに落ち込むところでロープを出す。ここへどうぞとばかりの小岩を使って、ベテラン2名が確保する。残り3名がブルーシックで慎重に下る。江頭がシュリング（短）を持参しておらず、借りる不始末。斜面を登る風も結構あって、ロープを収めたあとも、引っ掛け、転倒はしばらく洒落にならない。教えて貰った通り、膝をしっかり前に、腰を落として重力と風と会話しながら下る。最終局面で斜面を右にトラバース、一層慎重にこなし切通岩の喜作レリーフで一息つく。

あとは稜線を気楽に...と思ったが甘かった。雪崩の危険を最小に、丁寧にリッジをたどる道程は時に肩幅ほどの切れ落ちた平均台、いやらしいトラバースの踏み跡は無視して空中に飛び出した岩稜にしがみつ、あるいは蛙岩の胎内くぐりでザックを抜くのに苦労する。今日の終点は確実に大きくなって見えてくるが、なかなかどうして表銀座も簡単には終わらない。最後の一本は恐らくテン場代を嫌った先人のサイトだったろう、風よけブロックが詰まれた稜線上。出発して9時間、燕山荘。大枚叩いた麦酒が美味いぜ。（江頭）

4月30日（水）^{えんざ}晴れ / 風弱

起床：03:00 燕山荘テン場発：04:45 燕岳山頂着：05:07 テン場着：05:30
下山：06:30発 合戦小屋着：07:10 中房温泉着：9:45

遠く東の空は薄く雲がかかり4:50分の日の出はぼんやりと薄いオレンジ色に霞み、モルゲンロートを待ち受けるカメラマンたちを失望させた。夜来の風は多少残っているが、空身のアイゼン歩行には少しも苦にならない。20分程で燕岳に着く、山頂からは槍の北鎌尾根が南西方向に威圧的に見える。そして昨日から歩いてきた大天井岳と横通岳へ続く2800mの稜線が南に続き、歩いてきたルートの長さを改めて思う。後方、北へ目を向けると蓮華・爺ヶ岳から後立山に白い稜線が遠く延びる。



さて、メンバーの思いは早や下界に...。最後の記念写真を撮りテントサイドに帰り、撤収を終え合戦尾根を一気に下る。なかなか足並みが揃わないのは今後の課題。10時前に中房温泉に下りきった。うれしい事に登山口に露天風呂が出現している。熱めの湯で汗を流し、電車移動の利点で早速ビールで乾杯。一路刈谷へ向かう。

縦走中は天気も幸いして、穂高の山々を朝から日没まで心ゆくまで楽しく見ることが出来た。前穂の北尾根も槍の北鎌尾根も西側から南側に視線を移すなかで随分形を変えた。同じように5人のメンバーの動きやスキル・体力も縦走中の時間の中で得手不得手が顕著に見えた。経験・訓練・知識の大切さをしっかり体験できた合宿だったと思う。

表銀座とは言うものの人通りの少ない稜線だった、しかしそれで良い。5人のメンバーがいれば十分だ。それぞれのメンバーシップが十分に発揮できた。B隊のサポートも大矢君の気象サポートも有難かった。又、記憶に残る山行がひとつ加わった。 記：町田

< 計画 >

今回の春合宿は、行程が長いため、天候の変化も考慮して、余裕を持った日程で計画した。事前準備として、メンバー全員が個人山行やトレーニングによる体力強化や雪山歩行訓練を実践していたため、トラブルも無く予定通り行動することが出来た。また、移動に公共交通機関を利用したので、運転者の負担を無くすことが出来たので良かった。今後も採用したい。

< 行動 >

全日程好天に恵まれたため、計画通り快適に行動できた。行動場面としては、蝶ヶ岳～常念岳の強風内での行動、常念岳の急登、大天井岳のザイルを用いた急斜面の下降、大天井岳～燕山荘のトラバース歩行やナイフリッジ上の歩行など、変化に富んだ行程だったため、ザイルワークやアイゼンを駆使した歩行の実践訓練を行えた。

今後は円滑なザイルワーク、確実なアイゼン歩行のため、ザイルワークの練習、足腰強化のためのトレーニングを実践していきたい。

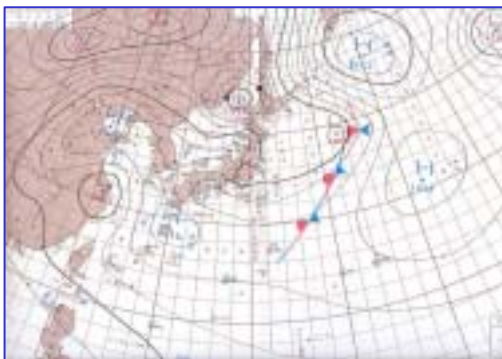
< 食糧 >

今回初めて採用した、うなぎ丼が大好評。レトルトでも十分美味しくいただくことが出来た。今後も採用していきたい。麺料理は乾麺を採用したため、材料を軽量化できた。但し、芯が残りやすいため、調理に注意が必要。また、多少粉っぽさが残るため、改善を行えばさらに美味しくいただける。海藻サラダはミネラルが不足しがちな山の生活に適している。プリンや杏仁豆腐は材料が軽く雪山では確実に固まるため、冬山、春山に適したデザートである。



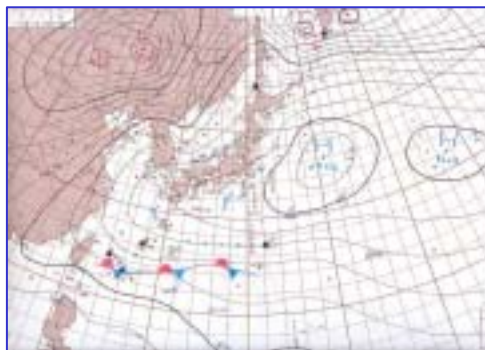
合宿中の天気図

【4/27 18:0】



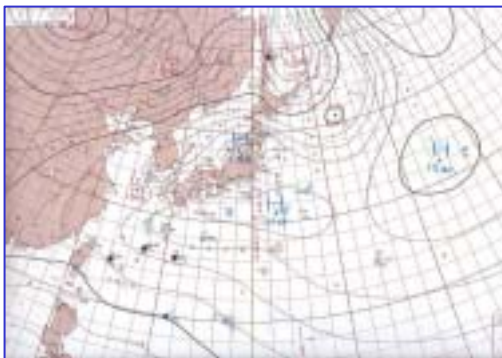
27 晴れ(風弱し)

【4/29 18:0】

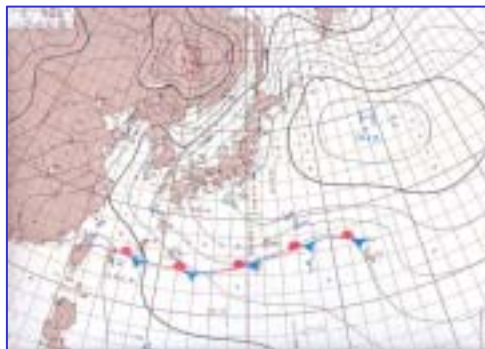


29 晴れ(11時頃東天井岳上空にレンズ雲)

【4/28 18:0】

28 晴れ(蝶槍付近で西方からの強風、
10~12時頃曇雲)

【4/30 18:0】



30 晴れ(気温上昇)

08年 春山会計報告

内容	円
電車(名古屋 松本)	29,350(5名)
バス(松本 沢渡)	5,250(5名)
タクシー(沢渡 上高地)	8,000(8名)
宿代(徳澤ロッジ)	77,600(8名)
食糧(予備食あり)	13,007(3名x2食+5名x6食)
テン場代(常念小屋)	3,000(5名)
テン場代(燕山荘)	2,500(5名)
タクシー(中房 松本)	15,000(5名)
電車(松本 名古屋)	30,350(5名)
合計	184,057